

11月下旬、菊池松囃子能場(県指定重要文化財)で清掃作業をする上町区の福山和幸区長と山村美佐子さん。福山区長は「今の時期は落ち葉が多くて大変だけど、先輩たちから、ここは大切な場所だからと教えられてきました」と話しました



特集 650年の思いが宿る舞台 菊池の松囃子

650年以上続いてきた
伝統芸能「菊池の松囃子」。
そこには、伝統を絶やさぬよう、
守り、受け継ぎ、
支えてきた人々がいました。
文化とは何か。
伝統とは何か。
松囃子とそれに関わる人たちの
思いに迫ります。

【問い合わせ先】生涯学習課文化振興係
☎0968(25)7232

★★★
**プレミアム付き
商品券** **2次販売の
購入希望者を募集!** **9,600冊
販売!**

対象 市内に住所がある人(令和4年12月1日現在)
内容 5千円で1万円分の商品券を販売
※1人1冊まで
申込方法 ▶ホームページ(下記二次元コード)から
▶本紙付属の専用はがきを郵送、または
商工振興課、各支所まで持参
申込期限 令和4年12月16日(金) 必着
購入方法 引換券と現金を持参し、希望する販売所
で購入してください。
販売場所 きくち観光物産館、七城メロンドーム、
旭志ふれあいセンター、泗水養生市場
販売期間 令和5年1月12日(休)～18日(水)
午前9時～午後5時
※申し込み多数の場合は抽選となります。当選者の発表は引
換券の発送(1月上旬予定)をもって代えさせていただきます
問い合わせ先 商工振興課 ☎0968(36)9720



赤(個店限定)5枚、青(共通)5枚の10枚1セット
【使用期限】令和5年2月28日(火)

令和4年10月末の人の動き			
人口	前月比	年齢別人口	
総人口:47,158人	57	0～14歳	5,892人 13%
菊池:23,393人	34	15～64歳	25,050人 53%
七城:5,050人	9	65歳以上	16,216人 34%
旭志:4,205人	-7		
泗水:14,510人	21	自然増減	社会増減
男性:22,662人	32	出生:22	転入:99
女性:24,496人	25	死亡:57	転出:55
世帯:19,926世帯	58		

今月の表紙
今年の「菊池の松囃子」の一幕で、仕舞「胡蝶」を演じているのは松本隆子さん(高野瀬)。訪れた観客に凛々しい舞姿を披露していました。特集では650年以上続いているとされている、菊池の伝統芸能を紹介しています。芸能を継承する人、周りで支える人たちの思いをぜひご覧ください。



Contents ~今月号の掲載項目~

- 3 【特集】650年の思いが宿る舞台
菊池の松囃子
- 16 **市職員の給与・定員管理などを公表します**
- 18 SDGs通信 わたしたちにできること
- 19 花のまちづくりガーデニングコンテスト2022
- 20 社会を明るくする運動 つながり ~活動報告~
- 21 【作文】プラチナ未来人財育成塾
- 22 健康だより 良い睡眠で心も体も健康に/歯ッピーキッズ
- 23 国民年金情報/献血を広げよう/介護予防ミニ講座
- 24 文芸きくち
- 25 KiCROSSだより
- 26 人権・同和教育シリーズ/農業委員会だより
- 27 南北朝・菊池一族歴史街道/地域おこし協力隊通信
- 28 **情報つう**
- 32 **▼お知らせ**
裁判員候補者に名簿記載通知を発送します/建物の新築・増築・取り壊しの際は届け出が必要です/新しい人権擁護委員が着任しました/田や畑から公道へ出る際の注意事項/文化財保存整備費補助金/シニア向け生活支援サービスガイドを作成しました/令和5年10月からインボイス制度が始まります/電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金/12月の「税」の納期限12月26日(月)/年末年始のごみ収集とし尿くみ取りの日程/令和4年度(上半期)の公共工事などの入札結果を公表します/お詫びと訂正
- ▼募集**
第2回菊池市職員採用試験/寄せ植えワークショップ参加者募集/パブリックコメント募集/岩手県遠野市への市民交流団員募集!
- ▼相談**
もの忘れ相談会/一人で悩まないで男女共同参画専門委員相談/認知症介護家族のつどい/納付相談夜間窓口を開設します
- ▼講演講習**
認知症サポーター養成講座
- ▼イベント**
未就学児のためのすくすく講座/わいふ一番館企画展「私たちのまちの遺跡」/光のファンタジー菊池2022を開催/二十歳を祝う集い(成人式)/わいふ一番館展示ギャラリー
- 33 **市民の広場**/今年も「温泉総選挙@2022」に菊池温泉がエントリー!/菊池の情報発信
- 34 **高校魅力化全力通信**
- 35 **菊池っ子だより**
- 36 **TOPICS ~まちの話題~**
- 38 **市長からのメッセージ**/休日在宅当番医
- 39 **ハッピーバースデー**

公式ホームページ

癒しの里 菊池

熊本県菊池市公式ウェブサイト

市民の暮らしに必要な情報やまちの話題などを掲載しています。

! 新型コロナウイルス感染症の影響により掲載内容が変更になる場合があります。最新情報はホームページをご確認ください。

松 囃 子

「天下太平、国家安穩…」

毎年10月13日、

菊池松囃子能場で

演じられる松囃子。

南北朝時代から

受け継がれてきた、

菊池で最も古い

伝統芸能の一つです。

その祝い、 懐良親王のために――

厳かに響き渡る声、賑やかに鳴る鼓や大鼓。笑いを誘う狂言が人々を楽しませます。毎年10月13日に奉納される「菊池の松囃子」（御松囃子御能）。約650年以上も昔、菊池一族の雄、菊池武光が後醍醐天皇の皇子、懐良親王のために催した新年の祝い事が始まりとされています。最初に祝言の曲「松囃子」を演じ、次に協能の「老松」を実施。その後、仕舞や狂言を数番行います。

九州の南朝勢をまとめる使命を帯び、7歳で奈良の吉野を出発、19歳で菊池にたどり着いた懐良親王の艱難辛苦をねぎらうものでもあったのではないのでしょうか。数えるほどしか伝承されていない各地の松囃子の中でも最も古く、室町時代の「松囃子」を伝承している唯一のものともみられ、また能の変遷過程を知る上で大変貴重なものとされています。

平成10年には国の重要無形民俗文化財に指定。菊池一族の栄枯盛衰を伝えるものとして、時を変え、場所を変えながらもその思いはさまざまな人に引き継がれ、今に至っています。

今年の10月13日に奉納された菊池の松囃子。観客の前で天下泰平を願う古式ゆかしい舞が披露された



大切に 受け継がれてきた 松囃子

当時の形を伝承している唯一のものとみられる「菊池の松囃子」。その保存・伝承のために中心となって動いてきた「御松囃子御能保存会」には、先人たちが築いてきた伝統文化を継承していこうとする並々ならぬ思いや伝統への誇りがありました。



1_先代の舞人・田島實さん。昭和15年～58年まで43年間舞人として活躍した 2_平成28年には国立能楽堂の舞台上で菊池の松囃子を披露 3_平成10年に竜門ダム斑蛇口湖で行った薪能 4_本番に向けて稽古に励む御松囃子御能保存会の皆さん

当時の形を今に伝える
御松囃子御能保存会

650年以上もの長い歴史を持つ「菊池の松囃子」。当時からほとんど変わらぬその形を今も脈々と受け継いでいるのは「御松囃子御能保存会」の皆さんです。

地域住民を中心に昭和43年に発足。会長で、舞人を1人で40年務めている田島晴雄さん（東正観寺）は「観客に見てもらおうというより、懐良親王に舞いを捧げることに意識を集中しています」と話します。

尊敬していた
祖父の背中を見て

狂言師でもあった祖父・實さんに幼少から芸の手ほどきを受け、菊池の松囃子とともに奉納される狂言に9歳で初出演した晴雄さん。「稽古をするとほめてくれた。優しくした祖父の背中を今も覚えています」と当時を振り返ります。

「幼い頃は、稽古が嫌で辞めようと思ったこともあったんで

されました。19歳からは舞人を補佐する後見を行っており、晴雄さんの舞いを後ろから学んでいます。

「舞台上立つうちに松囃子を大切にしなければという気持ちが湧いてきました」と慎太郎さん。昨年からは慎太郎さんの長女・莉愛さんと長男・琉翔さんも舞台に出演しています。

「楽しく狂言を続けているようですね。子どもたちには歴史や伝統だけでなく、曾祖父、父がつないできた思いを伝えていきたいですね」

菊池の松囃子が
永く続くことを
願います

熊本大学「民俗学専攻」
安田宗生 名誉教授



国の重要無形民俗文化財に指定された際に携わりました。私が初めて菊池の松囃子を見た時の舞人は田島實さん。重厚かつ品格のある芸に感激したことを覚えています。

現在は實さんの孫の晴雄さんが跡を継ぎ、おじいさんと遜色のない立派な演者として舞台上に立っていますね。

もし菊池の松囃子が東京で公演されたならば、席を確保するのは簡単ではないでしょう。そんな伝統芸能が身近にあるのは幸せだと思います。中世の芸能が長く伝承されているのはとても価値があることですし、地元の人が芸術・文化を大切にしていた証拠です。

菊池の伝統芸能がこれからも末永く続いていくことを願っています。



御松囃子御能保存会

会長 田島晴雄さん 田島慎太郎さん

「コロナ禍でも欠かさず奉納できているのは、支えてくれる皆さんのおかげです」と2人は笑顔を見せました

でも私が休むと祖父はさみしそうな顔をしていました。能や狂言に真剣に打ち込む姿を尊敬していましたし、祖父の次は私がやる以外にないとも感じていました」

昭和58年、27歳で舞人を實さんから受け継ぐとその2年後、實さんは安心したように83歳で他界。会の中心となった晴雄さんは菊池の松囃子をどう残していくかを模索しながら、行政や大学教授などとの連携を深めました。

受け継がれる思い

「松囃子を支えているのは保存会だけではありません。周囲の人たちの助けやねぎらいの言葉に何度も救われました」と晴雄さんと慎太郎さんは声を揃えます。

菊池の松囃子は、世の中が不安定だった江戸時代や戦前戦後も1年も欠かすことなく奉納されてきました。途切れることなく続いてきた伝統芸能への思いは次の世代にも受け継がれています。

伝統芸能を受け継ぐおじいさんと孫の物語

Pickup ピックアップ

「れんしゅうきつくないの」「まつばやしのうは菊池市の人びとのしあわせをねがう大切なものなんだよ。この町のたからものなんだよ」

これは県が発行している、道徳教育用郷土資料「くまもとのこころ」(小学1・2年生用)に掲載されている話の一つ。舞人・田島晴雄さんの初舞台を前に祖父・實さんと稽古をしている様子が描かれています。菊池の松囃子を大切に思う實さんの思いとそれを受け取ろうとする晴雄さんの姿がまっすぐに伝わってきます。

初舞台後、晴雄さんはおじいさんの言葉を思い出します。これが受け継ぐきっかけの一つになったのではないのでしょうか。菊池の伝統芸能をつなぐ物語は、日本の古き良き伝統や文化の良さを知るための題材にもなっています。



掲載内容はこちらから視聴できます
RKK「熊本心」より

菊池の松囃子の舞台上上がる人の役割や舞の流れなどを紹介します。



舞の流れ

一 囃子方・地方・後見が着座後、舞人が登場し、將軍木に向かって両手を付き、拝む

二 舞人による開口

三 笹の舞



四 笹の舞が終わわり、後見に笹を渡す

五 扇の舞



六 舞が終わわり、再び將軍木に向かって両手を付き、拝む

こちらから動画を視聴できます



舞人 —まいびと—

舞台の主役です。引立鳥帽子・直垂・大口袴・白足袋姿の舞人が將軍木に向かって優雅に舞います。舞の振りや素朴な謡の調子から松囃子として古風な面影を残していると考えられており、芸能史上貴重なものです。能は面をつけることが多いですが松囃子では用いません。



囃子方 —はやしかた—

舞人や地方を引き立たせる役割です。菊池の松囃子は太鼓2人、大鼓1人によって構成されます。たんなる伴奏ではなく、能の世界をつり上げていく大切な要素の一つです。掛け声を発するのも特徴で、他の演者はこの掛け声で拍数や間合いを計っています。



地方 —じかた—

声楽部分が地方の役割です。全員が同じ高さで謡い、ハーモニーを形成することはありません。舞台へ向かって2列に座る合唱隊を、地頭というリーダーが統率します。絶対的な音高は定められていませんが、音の高さは低めで発声します。



後見 —こうけん—

衣装を整えたり、奉納に使用する道具を出し入れしたりすることが役割です。また、上演中に舞人に事故があり演じ続けられない際には、後見が途中から代役となって演じます。そのため、後見は舞人と同格か、それ以上の人が務めることが多いです。



奉納される前に、能場に置かれます。トウガラシとミヨウガで作ったツルと、シイタケのカメが蓬萊山に舞い遊ぶ心を表現した風流。懐良親王と菊池氏のために作ってきたものです。

將軍木

菊池の松囃子が開催される能場の正面には、樹齢600年以上とされているムクノ老木があります。「將軍木」と呼ばれるこの木は、懐良親王の御手植えとも、挿したてられた杖から芽吹いたともいわれられており、大切に守られてきました。松囃子能が開催される10月13日は



この木を懐良親王自身に見立て、奉納します。人間の観客は、あくまで二の次。観客席は將軍木の正面を避けるように組まれ、年に一度の雅な舞でムクノ木を主賓としてもてなします。



各地に残る松囃子

福岡の博多どんたくの起源である博多松囃子や熊本の本藤崎八幡宮と北岡神社の松囃子、広島島の厳島神社の御松囃子能は今に伝わる松囃子の一つ。「通シ物」といわれる仮装、稚児行列も松囃子の一部とみられます。

10月13日

「菊池郡誌」によると、菊池の松囃子は当初、毎年正月に行われていたそうです。その後、菊池一族の出陣のため7月15日に変更。現在は菊池神社の秋季例大祭の初日である10月13日に奉納しています。日には変わっても懐良親王を思う気持ちは今も同じです。



狂言を披露する山内さん

私が狂言に出会ったのは47年前。先輩に誘われて狂言教室に入会したことがきっかけでした。最初は伝統芸能を守ろうという意識はありませんでした。でも舞台上立つうちにお客さんの反応が良くなって。そのうちに狂言の魅力にとりつかれました。

昭和56年には国立劇場で民族芸能大会に出場しました。全国各地の伝統芸能が披露され、レベルの高さに驚きました。自分なりに稽古を積んできたつもりでしたが、まだまだ甘かった。今のままではいけないと思ひ、プロの狂言師に師事したり、市内外で公演

したりして仲間たちと芸を磨きました。舞台上立つときは、菊池の狂言の魅力を高めたい。見てくれた人の心を少しでも動かしたいという気持ちで演じています。

能場は特別な場所

長年、続けてきましたが、今でも菊池松囃子能場では肩に力が入ります。古くからの歴史があるからでしょうか、他の場所にはない独特の雰囲気があります。まるで、昔の人たちと一緒に演じているような気がします。住んでいるうちに、特別な場所があるというのには誇らしいことです。菊池松囃子能場と同じように、菊池の狂言も長い歴史があります。先人たちが残してくれた狂言の魅力をもっと多くの人に伝えたいです。そのためにも今後も稽古を続けていきます。



Interview インタビュー

狂言の魅力を高めたい

狂言みのる会

山内理至さん(立石)

三番目

狂言

「菊池の松囃子」は、初めに松囃子を演じ、その後、仕舞や狂言を行います。狂言を担当する「狂言みのる会」の活動の一部を紹介します。

伝統をつなげる「狂言みのる会」

見る人をおかしみの世界へ
菊池松囃子能場を中心に狂言を演じている「狂言みのる会」。愉快な動作やひょうきんな声が見る人をおかしみの世界に誘います。
発足のきっかけは、晴雄さんの祖父で先代の舞人である田嶋實さんでした。狂言の担い手が少なくなってきたことに危機感を持ち、昭和51年に市と共同で狂言教室を開催。後継者育成を進めました。
その後、御松囃子御能保存会の会員で實さんの名前を冠した「狂言みのる会」を結成。さまざまな場所で日ごろの稽古の成果を披露しています。
伝統を絶やさないために
平成10年からは、小学生に地域の伝統芸能に触れてもらおうと、授業の一環として菊池北小学校で狂言の手ほどきを始めました。狂言みのる会では25年間授業を続け、今や北小の伝統にもなっています。今年からは市内の他の小中学校にも狂言の楽しさや面白さを伝えるために、市と共同で「伝統芸能継承事業」を実施。菊池の伝統芸能の魅力を伝えるため、これからも活動は続きます。



児童に狂言指導をする「狂言みのる会」の会員



菊池松囃子能場で狂言を披露する狂言みのる会。ユーモラスな演技で観客の笑いを誘う



能場は地域の誇り

四番目

現在の「菊池松囃子能場」は江戸時代に建設されました。以後、修理と改修を繰り返しながら、現在まで保存されています。地域のシンボルとして大切に管理されてきた背景には、住民の生まれ育ったまちに対する強い思いがありました。

特別に建設が許可された能場

「菊池松囃子能場」は菊池の松囃子を奉納するために作られた専用の舞台です。

もともと、菊池の松囃子は守山城（現・菊池神社）内で奉納されていましたが、菊池一族の衰退とともに城内から現在の場所に移りました。

限府の商人が江戸時代に書いた記録「嶋屋日記」（市指定文化財）によると、宝暦（1751年〜1764年ごろ）に舞台が火事で焼

失。その後、仮舞台で松囃子を行っていましたが、寛政8（1796）年に、現在の能場を建設したという記述が残っています。

当時は、凶作や飢饉によって深刻な経済危機にあり、徹底した節約令が出されていた時代。建設にあたっては商人からの寄付や地元住民の強い要望があったとされています。

古い建物だからこそ思い入れがある

「腰を痛めないように気を

つけろよ。せーの、いち、につけろよ。さん…」

菊池の松囃子が奉納される2日前、能場では、扉の閉めと清掃作業が行われていました。

作業を行っているのは御松囃子御能保存会と上町区の皆さん。長年、清掃や能場の管理を行ってきた茨木國廣さん（上町）は「古い建物だから、開け閉めが大変。でもだからこそ、この場所に思い入れがあるのかもしれないね」と話します。

同区では月に3回、能場や



きもの屋いばらき 店主
いばらきくにひろ
茨木國廣さん

將軍木前などで清掃活動を行っています。もともと茨木さんを中心に少ない人数で清掃作業を行っていましたが、地域のシンボルを守りたいという思いで、平成18年からは地域を巻き込み作業を始めました。

松囃子と能場は私たちの誇り

「生まれ育ったまちに能場があるのはうれしいこと。松囃子や能場は、地元住民の歴史や文化に対する誇りで守ら

れてきました」と茨木さんは胸を張ります。

「先人たちが守ってきた施設や文化は誰かが守っていないとなくなってしまう。御松囃子御能保存会の皆さんが気持ち良く舞台に立てるように、奉納される当日はちり一つないように掃除をしています。活動は住民同士が親睦を深める場でもあります。今の伝統や文化を若い世代にも受け継ぎたいです」

思いを理解するきっかけに

「近年、菊池の松囃子以外でも使用したいという要望が増えています」。菊池松囃子能場の管理を担当している生涯学習課の阿南亨学芸員は話します。

今年には民間団体による劇の上演や舞踊団による定期的なパフォーマンス公演も始まりました。「菊池松囃子能場は数百年の歴史がある建物。保

存が一番大切ではありませんが、利用することで今まで大切に守ってきた人たちの思いを理解するきっかけになればいいですね」と新たな可能性に意欲を見せています。



生涯学習課文化振興係
あなみけんじ
阿南 亨学芸員



【舞踊団 花童&つ喜 定期公演】今年度、定期的に公演を開催。美しい踊りを披露している ※12月〜2月は旧松倉家住宅



【能場コンサート】和楽器とコントラバスの共演で幻想的な空間を生み出し、訪れた観客を魅了した



【菊池高校「菊翔祭」】今年の文化祭では、生徒による能場を活用したパフォーマンスを実施



奉納前に舞台の準備をする
上町区の皆さんと御松囃子御能保存会の会員

Interview インタビュー



ゼーロンの会（熊本市）代表
うえむらきよひこ
上村清彦さん（七城町出身）

舞台が
生きているような
感覚がありました

今年の5月に菊池松囃子能場でシェークスピア「マクベス」を上演しました。私は菊池高校の卒業生ですが、高校の目の前にある能場には昔からなんとも形容しがたい神聖な雰囲気を感じていました。

ここは江戸時代からさまざまな人が歴史を紡いできた場所。そんな月日を重ねた和の空間とヨーロッパ近代演劇の融合を実現させたいという思いがあり、公演を行いました。

演じている時は、舞台がまるで生きているような、役者みんなに語りかけてくるような感覚を覚えました。他の演者も同じような感想を話しています。思いや誇りが舞台に詰まっているからなのかもしれません。貴重な建物が身近にある菊池は素晴らしいところだと改めて認識しました。



迫力の演技で観客を魅了

来年の秋にはシェークスピアの「ハムレット」を菊池松囃子能場で上演する予定です。今後も文化・芸術の拠点として、大切に管理・保存して行ってほしいですね。



今年の舞台上で狂言小舞を演じている田嶋莉愛さん(9歳)と
琉翔さん(7歳)。父・慎太郎さんが後見として見守っている

伝統を、受け継ぐ――

五番目

たくさんの人に
見守られてきた松囃子

「あの山からこの山へ、跳んできたるは何じゃるろー」

狂言小舞を舞っているのは「菊池の松囃子」の舞人・田嶋晴雄さんの孫・莉愛さんと琉翔さん。堂々とした所作で観客から大きな拍手を受けていました。

「私は祖父から松囃子を受け継ぎました。初舞台に立った時、祖父が後ろで見守ってくれました。今は息子が孫たちを見えています。何だか不思議な気持ちですね。祖父も先人たちも同じ気持ちだったのかもしれない」と晴雄さんは目を細めます。

菊池松囃子能場で清掃活動を行ってきた茨木國廣さんも思いを馳せます。「子どもの時から、松囃子と能場は大切にしなければい

けないと言われてきました。その思いが次の世代にも受け継がれているのでうれしいです」

先人たちの思いをつなぐ

菊池の松囃子に携わる多くの人には、周りの呼びかけにより活動を始めています。「やっつていくうちにこれは続けなければいけないと思っただんだ」。皆さん声を揃えて話します。

最初から「芸能を継承したい」「次世代に残したい」といった仰々しい気持ちがあったわけではありませんでした。「尊敬する人」「大切にしたい人」の背中を見て、続けていく中でそれが大事なものの、尊いものだとなります。

伝統を受け継ぐとは、相手の気持ちを理解しようと寄り添うこと。そうやって、担い手たちが先人たちの思いを受け取り続けてきたからこそ、伝統や文化に昇華されたのではないのでしょうか。

菊池の松囃子は650年以上ほとんど形を変えずに現在まで伝わっています。それは、形だけでなく、思いも同じなのかもしれません。